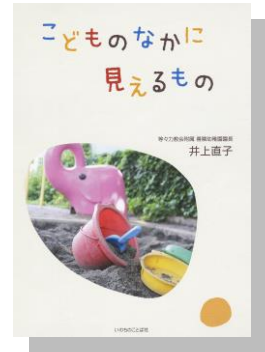


こどものなかに見えるもの/井上直子(善隣幼稚園園長)より

子育てワンポイント・励ましのことはら

わたしは、良い「集団」のなかでこそ
良い「個」が育つし、「個」がのびのびと
育たなければ、「集団」である意味は
ないと思っています。



青々と茂る園庭の木々は、冬の間は幹と枝だけ
でした。葉も花もないといったい何の木なのかわかり
ません。けれど、時がくると芽が吹き出し、葉が成長し、花が咲きはじめ、「個」
の違いがはっきりします。

人も何が得意で、何が苦手なのか、何を悩み、どう感じるのか、そして、何
者なのか…すぐには分かりません。でも、時がくると少しずつ見えてくる、それが
「個性」だと思います。

お母さんは、こどもが「個性」豊かにのびのびと育つことを願っていますね。
それなのに、「みんな」と違うことをしていると、「どうしてなの!」と、いらだって
いませんか? 「個」が「集団」かで揺れ動く私たち…。

わたしは、良い「集団」のなかでこそ良い「個」が育つし、「個」がのびのびと
育たなければ、「集団」である意味はないと思っています。良い「集団」は、
「個」の違いを受け入れあう柔軟でやさしい「集団」です。だから「個性」が発
揮されるればされるほど、魅力的でクリエイティブな「集団」に成長していき
ます。ちょうど、持ち味の違う木々が重なり合って美しい景観をつくり出してい
るこの園庭のように。

子どもたちの個性が輝き、それが折り重なって美しい社会を造りだすこと
ができるように。社会や家庭のカラーに子どもを染めるのではなく、子どもたちに
ある「良いもの」を引き出してあげる親でありたいものです。